



アポビッテ *ApoBitte!*

コミュニティファーマシーの創造を支援する情報誌

Vol. **1** 2015

特集 **第2回 コミュニティファーマシーフォーラム開催報告**





ローマ時代のアスクレピオスの模像(左側)。アスクレピオスの手には聖蛇が巻きついた“アスクレピオスの杖”を携えている。(ローマ国立博物館アルデンブス宮)

“ヒギエイアの杯”とならぶ医学・薬学のシンボル “アスクレピオスの杖”とは？



WHO設立20周年記念切手
ベナン共和国/1968年

アポロン神の子、アスクレピオスはケンタロウス族のケイロンのもとで医術を学ぶが、大神ゼウスにより殺害される。その死後、神の一員に加わったとされる。アスクレピオスは1匹の聖蛇が巻きついた杖を携えている姿で表されることがほとんどである。その杖こそWHO（世界保健機構）や、救急医療の Star of Life のシンボルになっている“アスクレピオスの杖”である…。

＊詳しくは「人と薬の羅針盤 黎明編」本文にて



単行本
「人と薬の羅針盤 黎明編」
編著：ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ
定価：2,800円（税抜き）
B5横判／オールカラー223ページ／じほう発行
＊お求めはお近くの書店やウェブで

ApoBitte! Vol. ① 2015

CONTENTS

04 “行きつけ薬局”のコンピテンシーモデル

06 【特集】 第2回コミュニティファーマシーフォーラム開催報告

07 JACP設立1周年祝賀講演

08 基調講演

10 シンポジウム・パネルディスカッション

11 会員発表・ランチョンセミナー

12 JACP 2014~15年の活動

13 JACP 2015年今後の予定

14 JACP入会のご案内

<広告掲載企業>

- 02 ネオフィスト研究所
- 13 東武トップツアーズ
- 14 沢井製薬
- 15 ネオプラスファーマ
フローラ
セントラルアポテーケ
- 16 田辺三菱製薬



今号の表紙写真

アッセンハイマー慶子氏のセントラル薬局のあるロッテンブルクの町並み。中央に教会、左手に薬局の『A』マークの看板、右手にドラッグストア「ミュラー（Müller）」の『M』マークの看板。

ApoBitte! vol.1

発行日：2015年7月10日

価 格：定価500円＋税

発行所：一般社団法人

日本コミュニティファーマシー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3

望月ビル3F

TEL03-3354-0288 FAX 03-3350-0735

発行人・編集長：吉岡ゆうこ

制作・編集：株式会社エニクリエイティブ

デザイン：ヨシオカデザインルーム

印刷・製本：三昇堂印刷株式会社



今号の表紙写真と同じロッテンブルクのネッカー川の風景

“行きつけ薬局”のコンピテンシーモデル

現在、仕事や機能を遂行するために「知識、技術、態度」の他に能力(コンピテンシー)が求められています。コンピテンシーの定義は様々ですが、共通しているのは「行動に表れている、表すことができること」「その能力、特性が結果や成果と結びつくものであること」とされています。JACPでは「行きつけ薬局」のコンピテンシーモデルを薬局のイラストで表しています。

①通りに面したショーウィンドウ

ここは薬局から街の人々へ情報発信するための重要なスペース。目を惹きつけるディスプレイで、季節や気候に応じた健康や薬の情報を伝えます。

②夜間・休日対応窓口

夜間・休日は人の頭が通らない大きさの窓口で対応します。窓口の横には薬剤師を呼び出すインターフォン、下には処方せん受付ポストがあります。

③体組成もしくは体重測定コーナー

薬局に来て気軽に体組成や体重を測ってもらいます。

④各種測定コーナー

血圧、骨密度、肺機能からお肌のキメや水分量チェックまで。体と健康のチェックのために薬局にいつでも気軽に立ち寄ってもらうコーナーです。希望者には測定したデータを薬局で個別に管理するサービスも提供します。

⑤OTC医薬品(市販薬)の対面相談販売

薬を使用する人の顔や様子を見ながら、症状や状況を直接聞き、薬剤師が適切なセルフメディケーションを提案します。

⑥薬局推奨の化粧品や食品

美容と健康に関連するものとして、化粧品や食品の相談販売も行います。例えば、皮膚の弱い方には予めパッチテストを行ってから、安心な化粧品を推奨します。栄養機能食品、低カロリー食、介護食、低栄養改善食、サプリメント、減塩・低脂肪調味料など、薬局ならではのものを取り揃え、栄養相談も行います。

⑦相談カウンター

食事、運動、睡眠、排泄、身体衛生(入浴・清潔)、美容や健康、介護、薬のこと。行けつきの薬局では、専門的な知識と経験をもった薬剤師が家族のように相談に応じます。

⑧談話・閲覧スペース

お茶を飲んで談笑したり、医療・介護・健康関連情報を閲覧してもらったりします。

⑨プライベートルーム(個別相談室)

薬剤師への相談の中には、他人に聞かれたくないこともあります。ドアを閉め、周囲を気にせずゆっくりと薬剤師に相談できるスペースです。

⑩調剤室

⑪無菌調剤室

無菌製剤を調製する部屋。

⑫無菌調剤室前室

無菌室に入る前に、除菌し清潔な白衣に着替える部屋。

⑬薬の受け渡し口

無菌調剤室からの薬を受け取る窓口

⑭夜間待機室

夜間に薬剤師が待機する部屋。

玄関モニター、仮眠ベッドの他、情報がわかるようテレビやラジオ等が設置されています。

⑮医薬品等搬入口

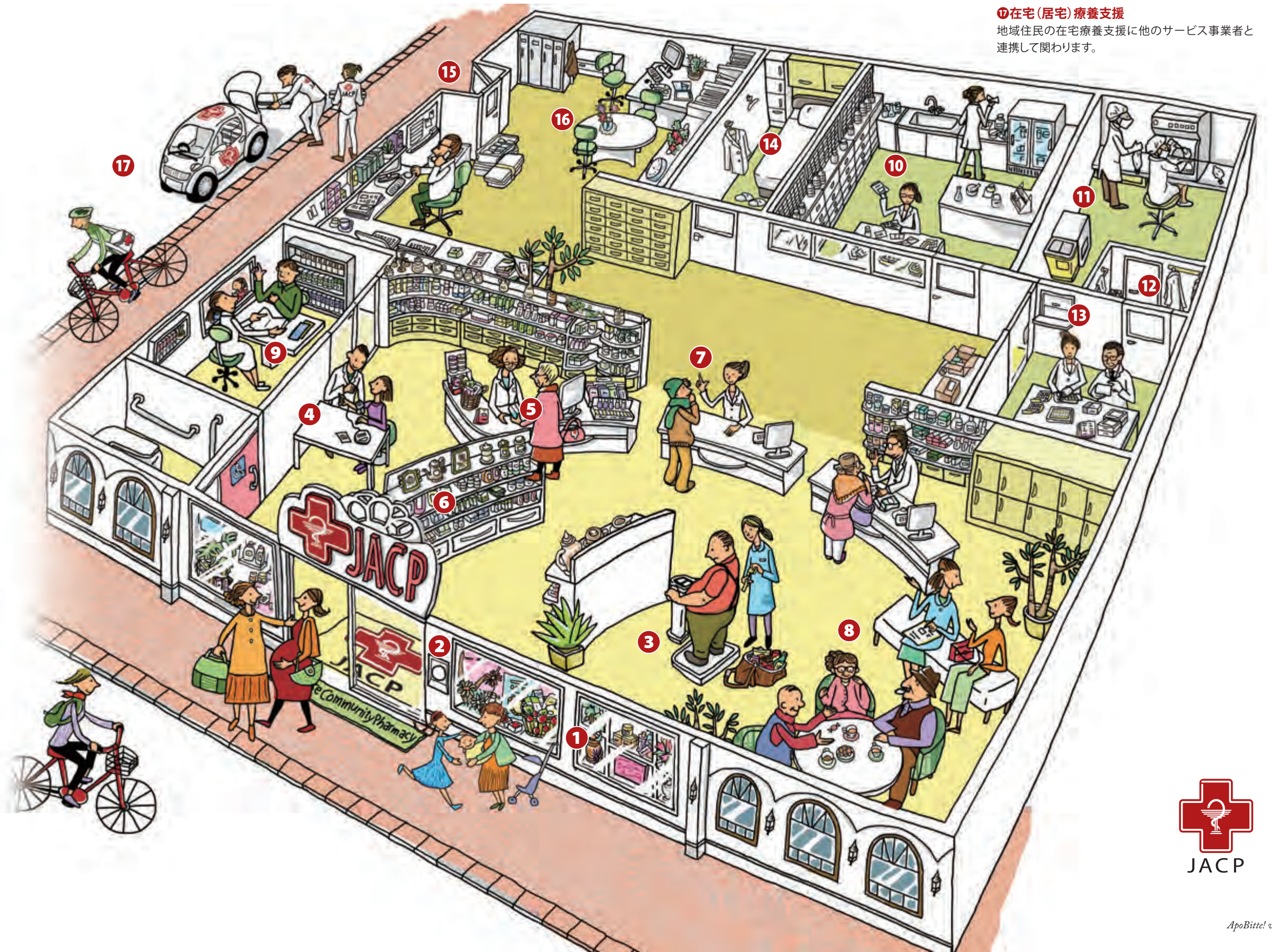
注文した薬が搬入されたり、患者宅に届ける薬を運び出したりする出入り口です。

⑯スタッフルーム&医薬品情報(DI)室

十分な広さが確保されたスタッフルーム。薬局スタッフは休憩だけでなく、研修会やカンファレンス、医薬品情報関連書籍の閲覧などに活用します。

⑰在宅(居宅)療養支援

地域住民の在宅療養支援に他のサービス事業者と連携して関わります。





JACP

第2回 コミュニティファーマシーフォーラム 開催報告

2015年5月24日(日)、東京・四谷のスクワール麹町にて、「第2回コミュニティファーマシーフォーラム」を開催しました。

「地域包括ケアに参画するコミュニティファーマシー」をテーマに、

130名を超える薬局経営者、薬剤師、医薬品・食品等の関係者が集いました。

薬局の在り方を掘り下げて考える講演、実りあるディスカッション、JACP会員による活動報告の他、展示会場では、最新の調剤機器や検査機器の体験、健康食品やハースティーの試飲なども行いました。

閉会後の情報交換会でも有意義な意見が交われ、

地域に貢献する薬局とは何かを参加者それぞれが深く考えることのできた1日となりました。

当日の講演やシンポジウムの内容をここに要約しご報告いたします。

<プログラム>

JACP設立1周年祝賀講演●「ドイツ薬事博物館の過去、現在、未来 ～ドイツにおけるくすり教育～」

エリザベート・フーヴァ(ドイツ薬事博物館 館長)

基調講演●「薬剤師が担う地域包括ケアと地域医療のアウトカム ～薬局の求められる機能とあるべき姿～」

座長：浜田康次(日本医科大学千葉北総病院 薬剤部)

講師：吉山友二(北里大学薬学部臨床薬学 教授)

ランチョンセミナー●「薬剤師が作るエビデンス ～アセトアミノフェン製剤の特定使用成績調査結果～」

品田一郎(昭和薬品化工株式会社 開発研究部)

シンポジウム●「地域包括ケアで求められる薬局の新しいカタチ」

篠原久仁子(有限会社フローラ 代表取締役)

「ドイツにはなぜ行きつけ薬局が存在するのか」

アッセンハイマー慶子(セントラルアポテーケ 開設者)

パネルディスカッション●座長：吉岡ゆうこ(有限会社ネオフィスト研究所 所長)

パネリスト：吉山友二(北里大学薬学部臨床薬学 教授)

篠原久仁子(有限会社フローラ 代表取締役)

アッセンハイマー慶子(セントラルアポテーケ 開設者)

会員発表●「薬局を健康ナビステーションに」

前嶋克幸(株式会社杏林堂薬局 取締役)

「CP化宣言 ～ビフォーアフター～」

大森由子(ネオプラスファーマ株式会社 代表取締役)



JACP設立1周年祝賀講演

ドイツ薬事博物館の過去、現在、未来 ～ドイツにおけるくすり教育～

ドイツ薬事博物館館長 エリザベート・フーヴァ

通訳：中村典子(ドイツ薬事博物館公認ガイド)

Dr. Elisabeth Huwer

ハイデルベルク大学とチュービンゲン大学で歴史学と考古学を修める。1997年、ドイツ薬事博物館館長に就任。2008年、薬学史をテーマにチュービンゲン大学で博士号取得。

日本コミュニティファーマシー協会の設立1周年、おめでとうございます。吉岡先生とのおつき合いはもう13年。毎年ドイツ薬事博物館に薬剤師を連れて研修にいらっしゃいます。

ドイツ薬事博物館は、1938年にミュンヘンで創立されましたが、戦争による閉館、再開後の資金不足等、紆余曲折があり、1957年に現在のハイデルベルク城内で再開されました。

博物館の仕事で、特に重要なのはパブリケーション、すなわち、薬剤師という職業への理解を深め、関心を起こす広報をすることです。薬剤師の職業としての成立、過去・現在の薬局の様子を展示を通して伝えています。展示では2点に重点を置いています。1点は仕事場としての薬局。もう1点は薬そのものです。

展示室は全部で11室あり、総面積は500㎡。図1が第1室です。多国語のガイドツアーを申し込んだ場合は、ここが待ち合わせ場所です。薬を使った治療法の歴史の説明があります。薬棚には、1740年頃に使われていた薬がそのままの形で残り医薬品の歴史を語る糸口となっています。

ラボの展示では、今日ではもう見られなくなった道具類が並べられ、それらを使ってどのように仕事をしたのか、説明がされます(図2)。

重点テーマの2点目、薬について。過去400年ほどの薬の材料を展示し、何百もの薬の説明がされています。その例が図3です。製薬メーカーで製造された近代薬も所蔵・展示しています。

ドイツの薬剤師教育と薬局についてもご説明しましょう。大学教育

には、4学期間すなわち2年間ずつの基礎過程と専門課程があり、大学教育の後1年間の薬局実習が義務づけられています。実習後、試験に通ればアプロバチオンと呼ばれる開局免許が与えられます。

薬剤師の職場を見てみると、2013年のデータで、50,000人の薬剤師が一般薬局つまりコミュニティファーマシーで働いています。その中の17,000人が薬局経営者、33,000人が従業員です。5,000人ほどが製薬会社に勤務し、2,500人ほどが病院薬局で働いています。

ドイツでは、経営薬剤師が薬局に常駐することが義務づけられ、

薬局のチェーン化は不可能でした。2004年にこれが緩和され、チェーンは無理ですが3つまで支店を持てることになりました。

17の州にそれぞれ、法的な課題・仕事に取り組む「薬剤師会」と保険会社との交渉を行う「薬剤師連盟」が置かれています。この17の薬剤師会と薬剤師連盟、すなわち34の団体の上部団体となるのが、「ABDA(連邦薬剤師会及び

ドイツ薬剤師連盟)」です。ドイツ薬事博物館はABDAの下部組織で、広報の重要な柱となっています。

博物館の仕事に戻りましょう。広報と同時に大切なのが、収集、保管、研究です。コレクションの修理も重要です。コレクション内容は、薬容器は6,000点、薬剤・生薬等が6,000点、調剤道具、ラボの機械が4,000点、乳鉢や切断の道具等が350点、グラフィックや絵画が5,000点、薬局の調剤家具が12点、約10,000冊の書物などの印刷物です。今後もコレクションを増やし研究を進めていきます。



図1／ドイツ薬事博物館・第1室



図2／今は見られなくなった道具類



図3／過去400年ほどの薬の材料



基 調 講 演

薬剤師が担う地域包括ケアと地域医療のアウトカム ～薬局の求められる機能とあるべき姿～

座長：浜田康次 日本医科大学千葉北総病院薬剤部

講師：吉山友二 北里大学薬学部臨床薬学 教授

吉山友二 1980年、北里大学薬学部卒業。82年、同大学院薬学研究科博士前期課程（臨床薬学）を修了し北里大学病院薬剤部に入職、85年より薬学部講師を務める。95年、共立薬科大学（現慶應義塾大学薬学部）准教授に就任。米ノースカロライナ大学薬学部・大学病院への留学を経て2008年より現職。研究分野は臨床薬学、臨床薬理学、時間薬理学。

<座長より>

最近、地域包括ケアという言葉をよく耳にされるとと思います。地域包括ケアとは、厚生労働省が2025年までに整えることを目指している「高齢者が人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために必要な支援体制」です。この背景には、2025年に団塊の世代809万人が75歳以上になって、従来型の医療・介護がパンクすると予測されていることがあります。保険薬局は、今後実施されていく地域包括ケアに積極的に携わるため、その方法を薬剤師自らが創造し実践していく必要があると思います。

本日は、北里大学薬学部教授の吉山友二先生に、薬局の求められる機能とあるべき姿をお話いただきます。

<講演要約>

本日は、平成25年度厚生労働科学研究「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」において作り、公表した「薬局の求められる機能とあるべき姿」について、その中身を具体的にしながらお話しいたします。

平成5年に、当時の厚生省業務局から「薬局業務運営ガイドライン」が出ましたが、その後20年間、同種の通達は出されませんでした。その間、医療は高度・複雑化し、高齢化社会が到来、院外処方箋65%を超え、在宅医療も進展、薬剤師を取り巻く環境は変わりました。そのような背景と、本日のフォーラムのテーマでもある「地域包括ケア」に向けた準備もあり、改めて「薬局の求められる機能とあるべき姿」をまとめる必要が生じたのです。

「かかりつけ薬局」は、複数の医療機関の処方箋を持って行く薬局のことではありません。処方箋の調剤を含み、食事、運動のアドバイス、一般用医薬品、サプリメントの情報・商品提供等を行えるのが望ましい形としてのかかりつけ薬局です。これを理解した上で「あるべき姿」の具体的中身を見ていきましょう。

「あるべき姿」は、次の二本柱でまとめました。前半は「薬局が備える基本的な体制」、後半は「薬局における薬物療法（薬学管理）の実施」です。「薬局が備えるべき基本的な体制」は図1のようになります。1つずつポイントを見ていきましょう。

1番目は「薬局が受けるべき許可」。保険薬局の指定だけでなく、自立支援、生活保護等の指定や、緩和・終末期ケアに関連する麻薬小売業者の免許、高度管理医療機器販売業の許可等を受け、さらに毒物劇物一般販売業の登録等を受けていることが望ましいということです。

2番目は「薬局の開局時間」。「原則午前8時から午後7時までの

時間帯に8時間以上連続して開局」としました。近隣の医療機関に合わせただけの開局時間では地域のトータルな薬局としての機能を果たせません。休日・夜間等における緊急時連絡先を提供し、他の薬局と連携して休日・夜間の体制を整備することも盛り込んでいます。在宅薬剤管理指導の充実を図る観点から、24時間体制を整えられればより望ましいことです。

3番目は「医薬品等の備蓄」。地域ニーズに対応して処方箋を円滑に受け入れ、後発医薬品の積極的使用の妨げとならないように備蓄・供給できる体制、さらに、在宅医療で必要な医療・衛生材料、介護用品の販売を行います。介護用品は販売先の紹介でも構いません。医薬品の在庫がない場合は、近隣の薬局から調達できる体制の必要を明言しました。一般用医薬品の販売も必要です。

4番目は「薬局が備えるべき構造・設備」。まずは十分な広さの調剤室・待合室の確保です。高齢者や障害者の利用を考え、バリアフリー法に基づいた建築物移動等円滑化基準に準じるようにしました。服薬指導等のやりとりが周囲に聞こえないように、たとえばパーティションで仕切る、カウンターアイランド方式にする等の必要性も盛り込みました。他には、薬局室内の禁煙もしくは分煙の環境、他薬局との共同利用も含めて無菌調剤を実施できる設備も必要です。ソフト面では、最新の書籍やインターネット環境の整備、PMDAメディナビへの登録等を盛り込みました。

5番目は「地域医療における役割」。医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携して、普及啓発活動や地域保健医療に貢献することが重要です。医療機関との間で情報共有に努め、薬局で得られた服薬状況や副作用の発現状況等の情報を医師にフィードバックすることも必要です。災害時に医薬品等の供給拠点となること、さらに使用期限が過ぎた医薬品や、使用済み注射針の受け入れ・回収と適切な廃棄についても盛り込みました。

最後、6番目には「薬局の人的機能」。マンパワーとしてまずは、調剤に伴う手技や技能の向上。これには無菌調剤の手技も含まれます。薬物療法、薬学に関する最新の情報収集が必要です。社会保障制度の理解にも努めるべきです。そして、繰り返しになりますが、一般用医薬品の選択や生活上の指導を行うのに必要な能力の向上。そのために、薬局開設者は、薬剤師に月1回以上の研修を受講させてほしいと考えています。管理薬剤師は、5年以上の経験があるとともに、認定薬剤師または同程度の認定を持っている者とも盛り込みました。

後半の「薬物療法・薬学管理に関するもの」は図2のようになりま

す。ポイントを見ていきましょう。

中心になるのは1番目の「薬学的管理」です。副作用の発現、効果等の確認、薬学的見地から処方箋を確認し、医師に対し疑義照会、そして、薬剤の変更や減量等の提案を行うことが基本です。これから増える緩和ケアでは、医薬品の適正使用の確保が必要になります。さらに、残薬の確認とその解消への取り組みが重要ですが、これには残薬が生じる原因を考え、服薬指導、疑義照会を経て薬剤の変更等の対処を行うことも含みます。長期処方の場合、分割調剤にすることで、服薬状況や効果、副作用の確認を定期的に行うことができます。アドヒアランスの向上のためにお薬手帳の積極的活用等も大切です。一般用医薬品の販売では、購入者の治療歴、医療用医薬品の使用状況、背景事情等を把握した上で情報提供を行い、必要に応じて医療機関受診勧奨をします。

2番目は「在宅医療への取組み」。在宅薬剤管理指導を実施していることがまず基本ですが、医療機関や自治体への周知、掲示等による実施可能であることの広報が必要です。在宅薬剤管理指導では、他職種と連携しての情報共有が重要です。在宅管理の担当人数が過剰にならないようにすることも盛り込みました。患者さんの退院時に病院薬剤師と連携し情報共有することも必要です。

3番目は「後発医薬品」。医療費適正化の観点から、理解と普及を図り積極的に使用促進すること。数量シェアで60%超という数値を設定しています。

4番目「健康情報拠点としての役割」です。まずは処方箋がなくても地域住民が日常的に気軽に立ち寄れる薬局であること。昔は町の薬局の姿として当たり前であったように、広く健康や介護の相談を受ける。これが「かかりつけ薬局」の意味と言えるでしょう。当然、栄養、運動、飲酒、喫煙など生活習慣全般の相談に対応することが肝心です。そのためには薬剤師が医療、保健、福祉、介護に関する知識を



図1／基本的な体制に関するもの



図2／薬物療法・薬学管理に関するもの



吉山友二氏と座長の浜田康次氏（右）

十分に持ち、各種資格を取得することも望ましい旨を提案しました。

その他として、医薬品医療機器等法に基づいて副作用報告を行うことも盛り込みました。

学識者や薬局開設者に、この「あるべき姿」についてインタビュー形式で調査をしました。反発があるかとも思いましたが、概ね同意を得られ、特に「薬局が備えるべき基本的な体制」は、「当然必要な体制である」と評価を受けました。

現在の薬局の実態を知るアンケート調査も行いました（図3、図4）。無菌調剤が24%と、少ない印象もありますが、他薬局との共同利用も含めて、以前よりもかなり上がっていると捉えてよいと思います。薬学的管理の実現では、100%実現している薬局もありました。

薬局にやっていただきたいことをまとめるのは、大変かつ楽しい作業でした。ぜひこの「薬局の求められる機能とあるべき姿」に向かって、皆さんの薬局を改善していただきたいと考えています。ご静聴ありがとうございました。

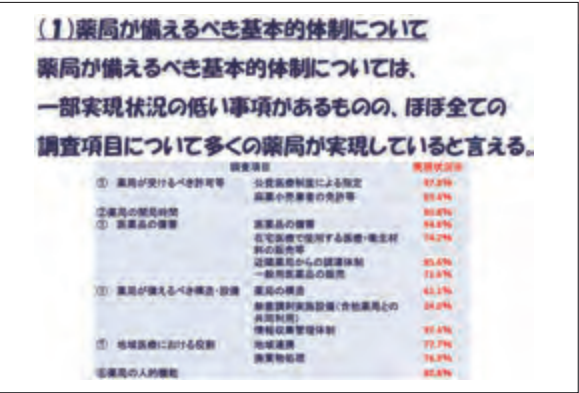


図3／薬局が備えるべき基本的体制について

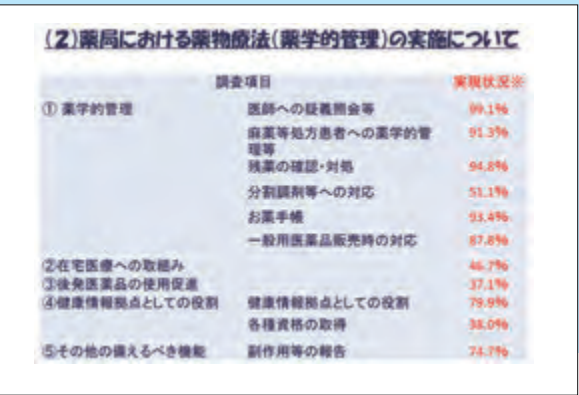


図4／薬局における薬物療法（薬学的管理）の実施について

シンポジウム

地域包括ケアで求められる薬局の新しいカタチ

有限会社フローラ 代表取締役 篠原久仁子

弊社が運営するフローラ薬局友部店は処方箋調剤だけでなく、管理栄養士推薦の甘味料や食品、オーガニックコスメなども置く薬局です。薬草ハーブガーデンを併設し、ハーブティーも出しています。

今、残薬が問題になっていますが、当薬局での介入事例を紹介します。生活保護を受けている透析患者さんですが、10年にわたって、出された薬をほとんど飲んでいませんでした。1日10回服用を指示されていたため、論文を根拠に食直後にまとめることを提案したところ、服用しやすくなり、症状は安定しました。さらに、管理薬剤師が訪問し、実際の食事を

見て、塩分の過剰摂取を確認し栄養指導も行いました。この事例から、在宅では、どんな生活状況で薬が飲まれているのか、食事状況を含めて把握し、患者さんに合わせて無理なく一緒に問題を解決していくことが大切だと痛感しました。また、残薬の確認をするだけでなく、その原因を把握して対策をとることも大切です。

予防や早期発見のための取り組みも大切です。予防の部分は調剤報酬の点数になっていませんが、これからの薬局に必要なことです。力を合わせて頑張っていきましょう。

ドイツにはなぜ行きつけ薬局が存在するのか

セントラルアポTEE開設者 アッセンハイマー慶子

ドイツのロッテンブルクで薬局を経営しております。ドイツには、1241年からの長い分業の歴史、薬局の開設・所有を薬剤師に限る法律や、職業団体ABDAの活躍もあり、行きつけ薬局が活用されてきました。しかし2004年の医療改革により薬局の利益が大幅に減ったため、薬局では新たな努力が必要になりました。

私の薬局では「渡す製品に1つ質問、1つアドバイス」を徹底しました。たとえば「どなたがお使いですか」「大きい錠剤ですが大丈夫ですか」などが。ひとつ質問しただけでいろいろと情報が入り、副

作用や間違った使用を未然に防ぐこともできます。改革スタート当時は「何もやっていない薬局が医療費を使いすぎ」とイメージを持たれてしまったのですが、この工夫で「薬局はちゃんと仕事をしている」と認識されるようになりました。

また、薬の在庫がないときは、「ありません」と言わず、「注文できます。3時間で届きます」と伝えます。質問されたときも「わからない」ではなく「調べます」。患者さんにも近隣の医院や介護施設にも、薬局の「できる」を積極的に伝えアピールしていくことが、これからの薬局に必要な姿勢だと思います。

パネルディスカッション

シンポジウムの最後にはディスカッションが行われました。薬学生からアッセンハイマー氏に「日本の薬学教育に足りないものは」と質問があり、氏は「ドイツでは手取り足取り教えてくれず、自分で考えないと教えられない。日本の学生は、勉強したことを使って自分で問題解決する訓練ができていないように思う」と回答しました。

座長からの「地域包括ケア5領域(医療、介護、予防・健康、生活、住まい)にどれだけ関われるか」という議題では、パネラー一人ずつが回答。

吉山氏は、「有効で安全な薬の使用への貢献を基本に据えることで、5領域の各論を実行しやすくなるのではないか」。篠原氏は「私の薬局では、地域住民から相談を受け、調べてフィードバックするうちに仕事領域が広がった。質問を受けて調べることを繰り返すことが必要だ」と提言、アッセンハイマー氏は「薬剤師・薬局のできることを、どんどん患者さんにアピールしてほしい」と締めくくりました。



座長：吉岡ゆうこ（有限会社ネオフィスト研究所 所長）
パネリスト：吉山友二（北里大学薬学部臨床薬学 教授）
篠原久仁子（有限会社フローラ 代表取締役）
アッセンハイマー慶子（セントラルアポTEE 開設者）

会員発表

薬局を健康ナビステーションに

株式会社杏林堂薬局 取締役 調剤営業本部本部長 前嶋克幸

杏林堂薬局は、浜松市に本社を置き静岡県内で74店舗を展開しているドラッグストアです。私たちはタイトルにある「健康ナビステーション」を、「医薬品に関する助言や健康管理情報に関する相談、情報提供を実施する施設」と捉え、店頭でさまざまなことに取り組んでいます。

その中でも、体組成計、ストレスチェッカー、骨密度計、血圧計等による測定コーナーと血液検査は重要な試みです。お客様から人気もある測定コーナーでは、各機器での測定後、常駐の管理栄養士から結果にもとづいたアドバイスを受けられます。コレステ

ロールと中性脂肪、HbA1cの検体測定は、限られた店舗で週1回の実施ですが、お客様からの注目が高まっています。

認知症は、生活習慣病、特に糖尿病と関連関係がありますが、健康拠点である薬局としては、このような測定を行うことで、地域の認知症患者さんを減らしていく必要があります。もちろん測定だけでは不十分で、適切な助言をすることが今後求められます。そのように、薬剤師・薬局が地域住民の健康管理に主体的に関わることで「行きつけ薬局」となることができるでしょう。



講師の品田一郎氏



春の五味五色薬膳弁当

ランチョンセミナー

市販後調査から、薬剤師の職能を改めて確認

ランチョンセミナーでは、昭和薬品化工株式会社開発研究部の品田一郎氏による「薬剤師が作るエビデンス ～アセトアミノフェン製剤の特定使用成績調査結果～」と題した講演が行われました。公知申請により最大用量の増加、効能・効果の追加があったアセトアミノフェン製剤の市販後調査についてのレポートです。この調査では、日本病院薬剤師会と製薬メーカーが連携し、診療科の垣根を越えて多くの患者を調査対象とすることが可能となり、治療用量内での使用の安全性が確認されました。

ランチメニューは、フローラ薬局監修による「春の五味五色薬膳弁当」。体に優しく目にも楽しい昼食に舌鼓を打ちながら、診療科を超えて幅広く患者に対応できる薬剤師の職能を今一度確認するランチョンセミナーとなりました。

JACP 2014～15年の活動



2014年4月●東京四谷で設立記者会見を開く



2014年5月●第1回コミュニティファーマシーフォーラム開催(東京)



2014年5月●アポビット创刊号発刊



2014年6月●2014ドイツ薬学視察旅行・初夏催行



2014年6月●ドイツセントラルアポテーケー見学開催。理事長が1日店員になって働く



2014年7～9月●フローラ・コミュニティファーマシー体験セミナー開催



2014年8月●FIPバンコク参加。理事長、退任されるFIP会長と一緒に記念撮影



2014年9月●ミュンヘンのExpopharma参加。理事長ら店舗設計等を視察



2014年9～12月●CPワークショップ4回開催。CPの理想の店舗創りについて学ぶ



2014年12月●2014ドイツ薬学視察旅行・冬催行



2015年2月●第1回CP学術講演会を開催(東京)。写真は講師の山田悟氏



2015年4月●第1回CP研究会を開催(東京)。写真は講師の山村重雄氏



2015年5月●第2回コミュニティファーマシーフォーラム開催(東京)



2015年6月●第2回CP研究会を開催(東京)。写真は講師の森川則文氏



2015年6月●2015ドイツ薬学視察旅行・初夏催行

JACP 2015年今後の予定

◎第1期(2015) CP研究会 3～6回のご案内◎

国は「健康ナビステーション(仮称)」設置を目指し、2015年度に基準を作り、2016年に薬局機能公表制度で公表し、薬局許可証にも記載できるように考えています。2016年に向けて

早めに準備をしていきましょう。CP化に向けてJACPで何か支援できることはないか、個別相談会も開催します。残るはあと4回の開催です。会員の場合は、単回参加も可能です。

	タイトル	内 容
第3回 (7/11)	検査値を読み解き薬学的知見に基づく指導を実践	京都府立医科大学附属病院では昨年2月に処方箋への検査値記載が開始されました。記載に至った経緯、1年を経た現在の状況を薬剤部長の四方敬介先生にお話いただきます。長崎県薬剤師会会長の宮崎長一郎先生からは、腎機能情報を薬物療法の適正化にどのように活用しているか、薬局薬剤師の立場からお話いただきます。
第4回 (8/8)	薬局で取り組む禁煙指導	アメリカではCDTM(共同薬物治療管理)が薬局でも行われています。日本では禁煙指導に関するCDTM「禁煙支援笠間モデル」の研究が実施されています。薬局における禁煙指導、そしてO情報であるスモーカーライザーの活用のしかたも勉強します。
第5回 (10/10)	薬局で取り組む認知症の早期発見と予防	認知症の早期発見と予防は、薬局に求められている重要な機能です。認知症予防に関しては、アロマや脳トレグッズの活用などを体験します。認知症サポーター研修を兼ねています。
第6回 (11/7)	薬局で健康相談会を開催	キャンノンライフケアソリューション社の展示室で体組成計などの各種機器を使い、被験者と測定者の両方を体験します。また薬局で健康相談会を行うときの準備から実施までを学びます。

第75回 FIPデュッセルドルフ& エクスポファーマ視察ツアーのご案内

日 時：9月28日(月)～10月4日(日)7日間
場 所：ドイツ・デュッセルドルフ、ケルン、ボン
申し込み受付中! お申し込みは下記webよりお入り下さい。
<http://www.ja-cp.org>

(ご注意) FIP2015国際会議の登録費用は旅費に含まれません。
FIPのHPよりご自身の事前登録が必要となります。
お手伝いが必要な方は東武トップツアーズまでお問い合わせください。



“Warm Heart”

ありがとうの連鎖を



東武トラベル株式会社とトップツアー株式会社は
東武トップツアーズ株式会社として生まれ変わりました
お客様の信頼できる旅のパートナーとして
Warm Heartで歩きはじめます

東武トップツアーズ 東京法人東事業部
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2F
TEL:03-6667-0591 FAX:03-6667-0565 担当: 櫻井・鈴木
<http://www.tobutoptours.co.jp/>



JACP

入会のご案内

薬局は、地域の人々が心身ともに健康で「くらし甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域の人々にとっての拠り所となる「行きつけ薬局」でなければなりません。

そのような役割を果たす薬局を「コミュニティファーマシー」とし、一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会は、薬局が社会的役割と責任を果たすために、人々の生活圏を舞台とした健全な地域社会づくりに貢献するコミュニティファーマシーを創造することを目的に2013年11月22日に発足しました。

日本コミュニティファーマシー協会 理事長 志保 ゆうこ

<入会特典>

1. 本協会が主催する各種学術大会における発表資格
2. 本協会の催す研修会、講演会参加費の優遇
3. 本協会が販売・推奨する製品やサービス等の割引
4. 会員の薬局開業支援
5. 本協会が提供する業界関連情報の取得
6. その他、理事会で決定された特典

*会員の種別により特典の内容が異なる場合があります。
詳しくはホームページにてご確認ください。

<入会金および年会費>

正会員 入会金 5,000円 年会費 5,000円
 薬局会員 入会金 5,000円 年会費 1店舗当たり10,000円
 学生会員 入会金 0円 年会費 1,000円
 賛助会員 入会金 0円 年会費 1口 50,000円×2口以上
 名誉会員 入会金 0円 年会費 0円

*入会申込みは、ホームページよりお願い申し上げます。



JACP会員向け機関誌「ApoBitte!」を通して、コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり、販売促進、情報発信等に関する支援を行います。



<http://http://www.ja-cp.org>

「ひとつ上の品質」を「ひとりでも多くの患者さん」へ

サワイ ジェネリック



関東工場 [敷地面積 87,478m²]

●医薬品情報センター ☎ 0120-381-999 ●医療関係者向け情報サイト <http://med.sawai.co.jp>
(365日24時間対応)

なによりも患者さんのために

沢井製薬

2014年7月改訂



JACP

私たちは
コミュニティ
ファーマシーを
実践しています

We create the CP



ネオプラスファーマ
株式会社
千里プラス薬局
大阪府吹田市津雲台1丁目
2-D9 南千里ビル1階
虹薬局
大阪府吹田市津雲台1丁目
2-D9 南千里ビル2階



有限会社フローラ
フローラ薬局 本店
茨城県水戸市開江町743-5
フローラ薬局 河和田店
茨城県水戸市河和田町5003-4
フローラ薬局 友部店
茨城県笠間市鯉淵6679-12



セントラルアポテーケ
Central Apotheke
ドイツ・ロッテンブルク
Rottenburg, Germany

ネオプラスファーマ株式会社 | 有限会社フローラ | セントラルアポテーケ